

# 平成24年度 学校自己評価システムシート (県立川島ひばりが丘特別支援学校)

目指す学校像	将来の自立や社会参加に向け、心豊かに、たくましく生きる力を身につけることのできる学校 保護者や地域、関係諸機関から信頼され、誇れる学校
--------	--

重点目標	1 児童生徒一人ひとりの可能性と力を最大限引き出す指導体制づくり。 2 センターの機能の更なる充実と、地域に開かれ地元の学校として親しまれる学校づくり。 3 年間を通して児童生徒が健康で安全に学習できる環境づくり。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	名
	事務局(教職員)	4名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 ( 2 月 1 3 日 現 在 )		
年 度 目 標	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	○教育支援プランと通知票が一体化した。今年度実施に向け、目標設定や指導内容などについて、全教員で共通理解を図る。また、学部間で連携し、一貫した指導体制を確立することが課題である。  ○昨年、年次研修と合わせ研究授業を年間17回実施し、内3回は、外部講師に指導助言を受けた。教員としての指導力・授業力の更なる向上のためにも、授業研究や研修の充実を図る必要がある。	○児童生徒理解に基づく、一貫した指導体制の確立  ○児童生徒の可能性と力を最大限に引き出す授業づくり	①PDCAサイクルに基づいた教育支援プランの活用と類型単位での研修会の実施。  ②校内の研究授業・公開授業の充実、実施後の研修体制の確立。	①保護者アンケートの教育支援プランの活用に関する項目の肯定的評価90%以上とする。  ②日々の授業、並びに研究授業の充実を図る。外部講師による授業研究会を2回、講演会を1回実施する。 また、報告書を刊行し、次年度以降の指導に反映させる。	○保護者アンケートの教育支援プランの活用に関する項目の肯定的評価92.5% ○教員間や教員と保護者で共通理解を持って、個に応じた積み重ねの指導ができた。  ○オーダー方式の採用により、協議の活発化や効率化が図れた。また、研究協議の意見を日々の指導に生かすことができた。 ○授業研究会にて訪問部の児童の実践報告を行った。	A	○支援プランの記入や評価の仕方については、今後も学校全体で共通理解を図る必要がある。 ○児童生徒の課題や達成目標と到達状況を共有し、「一貫した指導体制」「学部間での連携」を確立する。  ○研究授業に参加しやすい環境づくりが必要。 ○授業後の話し合いとともに、教材の工夫を常に考える。
2	○指導の充実を図ると共に、機会を捉えて保護者・地域へ情報発信を行い、指導についての理解や支援の向上を図る。  ○「小中学校等への相談支援回数」、「支援籍学習」、「ボランティア養成講座受講者の年間活用」などのセンター的機能をさらに充実する必要がある。	○本校PRとセンター的機能の更なる充実	①校外向けホームページ開設に向けての検討。  ②学校公開・保護者参観の充実を図る。  ③支援籍学習、ボランティアの更なる充実。	①ネット commons を活用した校外向けホームページの開設。  ②保護者から意見等を聴取し、学校運営等に反映させる。  ③支援籍学習希望者については、100%実施。 ボランティア養成講座受講者の年間活用。	○校外向けのホームページを開設することができた。  ○保護者との連絡を密にし、意見・要望には迅速・丁寧に対応することができた。 ○支援籍学習において、児童生徒は、地域の中で学び・暮らしているという意識を強く持つことができた。	A	○校外向けホームページをPRし、即時性の活用を図る。そのためにも、記事等の更新に関する決裁の検討が必要である。  ○授業参観・保護者会などの参加率等を調査し、実施時期や方法等について検討する。  ○支援籍学習の希望者・希望回数増への対応を検討する。
3	○全ての児童生徒が健康で安心して学習できるよう、日々の健康観察に努めている。こうした中、医療的ケアに関する理解を深めることにより、指導の充実を図る。  ○児童生徒の安心・安全な学校生活を確かなものとするためにも、事故防止と防災対策が重要である。	○児童生徒が健康で安全に学習できる環境の整備	①全職員を対象とした医療的ケアに係る研修会の開催。  ②校内ヒヤリハットの活用、並びに緊急防災マニュアルに基づく避難訓練の実施。	①保護者アンケートの健康・安全に関する項目の肯定的評価90%以上とする。  ②5月以降、事故報告0件。	○健康・安全に関する項目の肯定的評価91.2% ○9月医療的ケア情報交換会において、リスクマネジメントについて、職員全体研修会を開催。 ○中学部では、学部単位で医療的ケア研修会を実施し、生徒の具体的な関わり方について理解を深めた。 ○生徒会にて、安全面を考えた環境整備活動を行った。	B	○年度当初、児童生徒理解のため、教員の共通理解、学部間での引継やグループ内での話し合いを積極的に進める。 ○医療的ケアは、安全面だけを上げるのではなく、教育活動という視点を大事にしていくことが必要である。 ○ヒヤリハット・医療的ケアヒヤリハットは、早い段階で報告する。

学校関係者評価	実施日 平成25年2月26日
学校関係者からの意見・要望・評価等	○初めに児童生徒の実態を細かく見て、教員間で共通理解を図り、授業を組み立て、評価することが必要。 ○グループでの評価は、児童生徒の成長を確認することができる。 ○評価を更に充実させるための2学期制の検討。 ○成果がすぐ表れない児童生徒のためにも、研究授業のオーダー方式は、大変素晴らしい取組。 ○NPO法人などの社会的資源・支援組織の活用が大切。
	○個人情報に気を付けながらも、常に情報発信をしていくことが必要。 ○ボランティアの募集については、地域の大学との連携が必要。 ○同窓会を活性化し、進路に関する情報交換の場として欲しい。 ○ひばりが丘のセールスポイントをアピールしていくことが必要。地域に発信していく中で、外向けのキャッチフレーズがあると良い。
	○医療的ケアについては、以前に比べると段階を踏んで進んできている。 ○医療的ケアは、学校にできることと、できないことがあるが、教育的資質を持って取り組んで欲しい。 ○防災については、火事や地震だけでなく、大気汚染や隕石落下などの問題もある。携帯電話等は、身を守る道具として、使用法などを指導していくことが必要。

